

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2025.7.14-20

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

5:1 年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、
5:2 年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。
5:3 やもめの中の本当のやもめを大事にしないさい。
5:4 もし、やもめに子どもか孫がいるなら、まずその人たちに、自分の家の人に敬愛を示して、親の恩に報いることを学ばせなさい。それが神の御前に喜ばれることです。
5:5 身寄りのない本当のやもめは、望みを神に置いて、夜昼、絶えず神に願いと祈りをささげていますが、
5:6 自堕落な生活をしているやもめは、生きてはいても死んでいるのです。
5:7 彼女たちが非難されることのないように、これらのことも命じなさい。
5:8 もしも親族、特に自分の家族の世話をしない人がいるなら、その人は信仰を否定しているのであって、不信者よりも劣っているのです。
5:9 やもめとして名簿に載せるのは、六十歳未満ではなく、一人の夫の妻であった人で、
5:10 良い行いによって認められている人、すなわち、子どもを育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助けるなど、すべての良いわざに励んだ人にしなさい。
5:11 若いやもめの登録は断りなさい。彼女たちは、キリストに背いて情欲にかられると、結婚したがりがり、
5:12 初めの誓いを捨ててしまったと非難を受

けることになるからです。

5:13 そのうえ、怠けて、家々を歩き回ることを覚えます。ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話さなくてよいことまで話すのです。

5:14 ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子を産み、家庭を治め、反对者にそしる機会をいっさい与えないことです。

5:15 すでに道を踏み外し、サタンの後について行ったやもめたちがいるからです。

5:16 もし信者である女の人に、やもめの身内がいるなら、その人がそのやもめを助けて、教会に負担をかけないようにしなさい。そうすれば、教会は本当のやもめを助けることができます。

教会は神の家族です。その指導者であり模範ともなるべきテモテには、教会の人々に対して家族のように接するようにとアドバイスが与えられています。教会の交わりというのは、良いところだけを見せるために表面的だけで終わるのが御心ではありません。親しい交わりによって、人は本当の姿を正直に出して、そこから成長できるのです。

「やもめ」のように、教会が支援すべき人について、ここでパウロが教えています。大切なのは、家族が支えるという本来の姿、本当に必要な人への支援、そして支援によって「非難」を受けるようなことにならないように…ということです。

教会の交わりでは金銭的な援助を求める人も現れかも知れません。しかし、何でも差し上げれば良いというものではありません。互いに主の栄光と証しのためにどうするべきかを考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 火曜

テモテ I



5:17 よく指導している長老は、二倍の尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのために労苦している長老は特にそうです。

5:18 聖書に「脱穀をしている牛に口籠をはめてはならない」、また「働く者が報酬を受けるのは当然である」と言われているからです。

5:19 長老に対する訴えは、二人か三人の証人がいなければ、受理してはいけません。

5:20 罪を犯している者をすべての人の前で責めなさい。そうすれば、ほかの人たちも恐れを抱くでしょう。

5:21 私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちの前で、あなたに厳かに命じます。これらのことを先入観なしに守り、何事もえこひいきせずに行いなさい。

5:22 だれにも性急に按手をしてはいけません。また、ほかの人の罪に加担してはいけません。自分を清く保ちなさい。

5:23 これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のために、少量のぶどう酒を用いなさい。

5:24 ある人たちの罪は、さばきを受ける前から明らかですが、ほかの人たちの罪は後で明らかになります。

5:25 同じように、良い行いも明らかですが、そうでない場合でも、隠れたままでいることはありません。

ここで言われている「尊敬」とは「報酬」を意味しています。主のためにフルタイムで働いている人への報酬は、査定ではなく尊敬の度合いを表わすということです。この場合の尊敬とは、その働きに対するものでしょうから、働きのための費用も含めて

「二重に」という意味かもしれませんが。二重というのは必ずしも二倍とは限りませんが、十分に働きができるように…という考え方でしょう。

指導者は長老に限らず批判を受け易いものですから、その訴えを聞くにあたっては慎重でなければなりません。ただし本当に罪を犯しているなら責める必要があるということです。

「按主」とは、牧師など教会の指導者を認めて、職に任じるための祈りです。これなしで教会を牧している人は、自称牧師であって公同の教会からは認められていないことになります。それほど大切な按主ですから、「だれにでも性急に按手をしてはいけません。」とパウロが言うのももっともです。これらは教会が聖書の教えから離れて行くことがないための秩序です。

罪や良い行いは必ず「明かになる」というのが、神の国の鉄則です。主に安心して委ねましょう。主のみわざを待ちましょう。主に報いていただき、さばいていただき、勝利を取っていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16日 水曜

テモテ I



を刺し貫きました。

パウロは全ての人は神の前に平等であると考えていました。しかし当時の社会には奴隷制度があり、主のみところに反していたのです。しかし、パウロは社会制度を形だけ変えようとしたのではありません。人の心から変えようとしたのです。仮に制度を変えても、人の心に不平等な考えがあるなら、また同じことが始まるからです。その心とは罪から来ていることは言うまでもありません。

むしろ私たちはどんな制度の中にいようとも、主の祝福と恵の中に生きることができるのです。パウロは奴隷達にその生き方を示しました。私たちも仕事や人間関係において、「ますますよく仕え」ることで、益を受けるでしょう。それは主の栄光を表わすみこころです。

「敬虔にかなう」とは主のみこころを歩むことです。またそのようなライフスタイルです。「これに同意しない人」は、自分の好き勝手に生きたいがために、歪んだ自説を主張する人であって、「紛争」のもとになります。敬虔でありましょう。

その敬虔は神のみこころを第一に喜ぶ生き方ですから、お金を第一にすることはありません。金銭は大切ですが、必要以上にそれを求める人は「金持ちになりたがで」る人は、結局金銭トラブルや罫にかかり、「自分を刺し通す」結果になります。「衣食」すなわち生きるだけのものがあれば十分です。それで「満足する」ところから人生を始めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

6:1 奴隷としてくびきの下にある人はみな、自分の主人をあらゆる面で尊敬に値する人と思わなければなりません。神の御名と教えが悪く言われないようにするためです。

6:2 信者である主人を持つ人は、主人が兄弟だからといって軽んじることなく、むしろ、ますますよく仕えなさい。その良い行いから益を受けるのは信者であり、愛されている人なのですから。あなたはこれらのことを教え、また勧めなさい。

6:3 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと、敬虔にかなう教えに同意しない者がいるなら、

6:4 その人は高慢になっていて、何一つ理解しておらず、議論やことばの争いをする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争いが生じます。

6:5 これらは、知性が腐って真理を失い、敬虔を利得の手段と考える者たちの間に生じるのです。

6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそが、大きな利益を得る道です。

6:7 私たちは、何もこの世に持って来なかったし、また、何かを持って出ることもできません。

6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。

6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罫と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。

6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分



17日 木曜

テモテ I



6:11 しかし、神の人よ。あなたはこれらのことを避け、義と敬虔と信仰、愛と忍耐と柔和を追い求めなさい。

6:12 信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、多くの証人たちの前で素晴らしい告白をしました。

6:13 私は、すべてのものにいのちを与えてくださる神の御前で、また、ポンティオ・ピラトに対して素晴らしい告白をもって証しをされたキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。

6:14 私たちの主イエス・キリストの現れの時まで、あなたは汚れなく、非難されるところなく、命令を守りなさい。

6:15 キリストの現れを、定められた時にもたらしてくださる、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、

6:16 死ぬことがない唯一の方、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれ一人見たことがなく、見ることもできない方。この方に誉れと永遠の支配がありますように。アーメン。

6:17 今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富ではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、

6:18 善を行い、立派な行いに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、

6:19 来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。

6:20 テモテよ、委ねられたものを守りなさい。

そして、俗悪な無駄話や、間違っ「知識」と呼ばれている反対論を避けなさい。

6:21 ある者たちはこの「知識」を持っていると主張して、信仰から外れてしまっています。恵みがあなたがたとともにありますように。

テモテへの厳かな勧めです。本当に必要なことは、このようにストレートに語るべきでしょう。テモテのたましいに響いたはずです。信仰を守り通すことは「戦い」でもあります。決して情性やいい加減なことでは乗り越えられない時があるのです。主はやがて御自身を表わす方、すなわちその教えの正しかったことを明かなさる方ですから、信仰を守り通しましょう。「永遠の支配」は神のものだからです。

ここでパウロはもう一度、富に関する戒めを書いています。「富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず」とは、自分の力で豊かになったと思わないためです。

また「富ではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き」とあります。そして「知識（間違っている）」よりも重要なものがあるのだと言っています。それは「まことのいのち」です。この問題を、この祝福を、この幸いを最優先にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18日 金曜

エゼキエル



1:1 第三十年の第四の月の五日、私がケバル川のほとりで捕囚の民とともにいたとき、天が開け、私は神々しい幻を見た。

1:2 それはエホヤキン王が捕囚となってから五年目の時であった。その月の五日に、1:3 カルデア人の地のケバル川のほとりで、ブジの子、祭司エゼキエルに【主】のことが確かに臨んだ。その場所で【主】の御手が彼の上にあった。

1:4 私が見ていると、見よ、激しい風が北からやって来た。それは大きな雲と、きらめき渡る火を伴い、その周りには輝きがあった。その火の中央からは琥珀のようなきらめきが出ていた。

1:5 その中に生きもののようなものが四つ現れ、その姿は次のようであった。彼らは人間のような姿をしていたが、

1:6 それぞれ四つの顔と四つの翼を持っていた。

1:7 その足はまっすぐで、足の裏は子牛の足の裏のようであり、磨かれた青銅のようにきらめいていた。

1:8 その翼の下から人間の手が四方に出ていた。また、その四つの生きものの顔と翼は次のようであった。

1:9 彼らの翼は互いに触れ合っていて、進むときには向きを変えず、それぞれ正面に向かってまっすぐに進んだ。

1:10 彼らの顔かたちは人間の顔で、四つとも右側には獅子の顔、四つとも左側には牛の顔、さらに四つとも鷲の顔を持っていた。

1:11 これが彼らの顔であった。彼らの翼は上方に広げられ、それぞれ、二つは互いに触れ

合っていて、もう二つはそれぞれのからだをおおっていた。

1:12 彼らはそれぞれ前を向いてまっすぐに進んだ。霊が進ませるところに彼らは進み、進むときには向きを変えなかった。

1:13 それらの生きものの姿は燃える炭火のようであり、たいまつのように見えた。火がそれらの生きものの間を行き来していた。火には輝きがあり、その火から稲妻が出ていた。

1:14 それらの生きものは、閃光のように出たり入ったりしていた。

エゼキエルはユダ族がバビロニアに捕囚になったその地で、神からの幻を見て預言しました。これらの幻は非情に幻想的で、また象徴的です。しかし神の栄光が神殿から去ったというように、それは現実世界を決定着ける、本質的な力を持ったものでもあるのです。

このように私たちの見える世界は、主の支配する天的な次元と連動しています。見える世界だけではないのです。エゼキエルが見たものは、主からのものであって、それは象徴的な表現によって書かれていますが、少なくとも主は私たちに天と地上との連動を覚えて、天を見上げるようにと願っているのです。

大きな雲と火は主の力を表します。四つの良きもののようなものは、主の力を担った天子とされます。四つの生きもの、人、獅子、牛、鷲は知恵、勇気、忍耐、迅速を表し、それぞれがバランスよく、また有機的に働いていることを表しています。

私たちの身に、またこの世に、さらには教会に起こることは主の主権のもとにあるのであって、その力は、このようにすばらしい権威と能力にのよるのだということを知りましょう。それゆに、人間の考えで何かを判断してしまうのではなく、権威をもって天と地を動かされる、主に聞いて従

いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



19日 土曜

エゼキエル



1:15 私がその生きものを見ていると、それら四つの顔の生きもののそばには、地の上にそれぞれ輪が一つずつあった。

1:16 それらの輪の形と作りは、輝く緑柱石のようで、四つともよく似ていた。それらの形と作りは、ちょうど、輪の中に輪があるようであった。

1:17 それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。

1:18 その輪の周りの縁は高さがあって恐ろしく、四つの輪の周りの縁は一面、目で満ちていた。

1:19 生きものが進むときには輪もそのそばを進み、生きものが地上から上がるときには輪も上がった。

1:20 これらは霊が進もうとするところに進み、輪もまたそれらとともに上がった。生きものの霊が輪の中にあっただからである。

1:21 生きものが進むときには輪も進み、生きものが止まるときには輪も止まり、生きものが地上から上がるときには輪も上がった。生きものの霊が輪の中にあっただからである。

1:22 生きものの頭上には、まばゆい水晶のような大空に似たものがあり、頭上高く広がっていた。

1:23 その大空の下で、その翼が互いにまっすぐに伸び、それぞれ一對の翼が彼らをおおっていた。それぞれの一對の翼が彼らのからだをおおっていたのである。

1:24 彼らが進むとき、私は彼らの翼の音を聞いた。それは大水のとどろきのように、全能者の声のようであり、そのよめきは陣營の騒音のようであった。彼らが止まるときに、そ

の翼は垂れた。

1:25 彼らの頭上にある大空から声があった。彼らが止まったとき、その翼は垂れた。

1:26 彼らの頭上、大空のはるか上の方には、サファイアのように見える王座に似たものがあり、その王座に似たもののはるか上には、人間の姿に似たものがあった。

1:27 私が見ると、その腰と見えるところから上の方は、その中と周りが琥珀のきらめきのように輝き、火のように見えた。腰と見えるところから下の方に、私は火のようなものを見た。その方の周りには輝きがあった。

1:28 その方の周りには輝きは、雨の日の雲の間にある虹のようであり、まさに

【主】の栄光の姿のようであった。私はこれを見て、ひれ伏した。そのとき、私は語る者の声を聞いた。

四つの生きもののそれぞれの輪は、神さまのご計画と時によって前進する、みわざであると言えるでしょう。主のご計画が生きものとともに進むということは、主の計画は無機質なオートマチックな作用ではなく、主の次元で進むということです。すなわち主のご人格によって常に判断と意志によって動かされているということです。それは「恐ろしい」ほどの權威に満ちた力です。

このように天における主のみことろとみわざが、私たちの社会や人生を決定付けるのたとしたら、私たちはもっと、主のみことろに目を注いでゆかなくてはならないでしょう。

天で起こっていることが、地上を決めるのです。もっと力を込めて祈りましょう。もっと真剣に主のみことろを求めましょう。もっと霊的な世界、天の主のレベルで、考え祈りそして理解して判断しましょう。

①神のみことろは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:1 その方は私に言われた。「人の子よ、自分の足で立て。わたしがあなたに語る。」
2:2 その方が私に語りかけると、霊が私のうちに入り、私を自分の足で立たせた。そのとき、私は自分に語りかけることばを聞いた。
2:3 その方は私に言われた。「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの民に、わたしに反抗する国民に遣わす。彼らもその先祖たちも、今日までわたしに背いてきた。
2:4 彼らは厚かましく、頑なである。わたしはあなたを彼らに遣わす。あなたは彼らに『【神】である主はこう言われる』と言え。
2:5 反逆の家だから、聞く聞かないに関わりなく、彼らは自分たちのうちに預言者がいることを知らなければならない。
2:6 人の子よ。あなたは彼らや彼らのことばを恐れるな。あざみと茨があなたと一緒にあり、サソリの間に住んでも、恐れるな。そのことばを恐れるな。彼らの顔におびえるな。彼らは反逆の家なのだから。
2:7 彼らは反逆の家だから、聞く聞かないに関わりなく、あなたはわたしのことばを彼らに語れ。
2:8 人の子よ。あなたは、わたしがあなたに語ることを聞け。反逆の家のように、あなたは逆らってはならない。あなたの口を大きく開けて、わたしがあなたに与えるものを食べよ。」
2:9 私が見ると、なんと、私の方に手が伸ばされていて、その中に一つの巻物があった。
2:10 その方はそれを私の前で広げた。それは表にも裏にも文字が書かれていた。そこに嘆きと、うめきと、悲痛が記されていた。

意義深い人生を送る人は、創造主である主のまごころを行う人です。それは、主に従わない人々の多いこの世において希少とも言える価値ある存在でもあります。ですから、意義深い人生を送る人は、この世の神に背く人々とは、全く違ったことを見、また語るようになります。

たとえばエゼキエルのように「反逆の家」に遣わされることもあります。「彼らや彼らのことばを恐れるな」という神様からの激励は、まさに私たちのためでもあります。

神様を認めず、または恐れずに背くような人々をも恐れずに、むしろ愛してひるまずに配慮を持ちつつも、真理を勇気を持って語りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

